

令和7年第1回甲賀市教育委員会（臨時会）会議録

開催日時 令和7年1月8日（水）
午後3時00分から午後3時31分

開催場所 甲賀市役所 4階 教育委員会室

出席委員 教育長 立岡 秀寿
教育長職務代理者 野口 喜代美
委 員 松山 顕子
委 員 池田 吉希
委 員 青木 秀樹

事務局出席者 教育部長 柚口 浩幸
次長（総務・管理担当） 谷 綾子
次長（社会教育担当） 前田 三嗣
次長（スポーツ担当） 福井 厚司
次長（学校教育担当） 小島 靖弘
教育総務課長 井上 大樹
書記 教育総務課長補佐 望月 一美

傍聴者 0名

議決・報告事項は次のとおりである。

1. 報告事項

(1) 甲賀市学校再編審議会からの答申について

◎教育委員会会議

〔開会 午後3時00分〕

次長（総務・管理担当） 改めまして、皆さんこんにちは。本日は何かとご多用の中お集まりいただきましてありがとうございます。

ただ今から、令和7年第1回甲賀市教育委員会臨時会を開会いたします。まず始めに甲賀市市民憲章の唱和を行います。皆様ご起立ください。

（一同 市民憲章唱和）

次長（総務・管理担当） ありがとうございます。ご着席ください。

それでは、開会にあたりまして立岡教育長からご挨拶を賜り、引き続きまして議事の進行をお願いいたします。

教育長 こんにちは。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

教育委員会事務局の仕事納め式のときに、こんな話をさせてもらいました。昔、中国では冬至の日が一番太陽が低く、昼間が短く太陽の力が一番弱いというように考えられていて、運氣もそれにつれて非常に低くなるどころ、1月に入ると、またもう一度光が差して、太陽が力を取り戻すごとくいろいろな困難が解決していく。そしてまた、運氣も上がっていくというような「一陽来復」という言葉を紹介しました。

今年の三が日は比較的天候にも恵まれましたのでまさに一陽来復の年明けとなりました。教育委員の皆様にも、つつがなく明るく新年を迎えられましたこと、お慶び申しあげます。

しかしながら、黙祷から始まる地域があるという現実があります。

昨年1月の能登半島の地震、9月の豪雨が大きなつめ跡を残し、私

たちに迫りくる災害の足音が感じられましたし、本当に尊い命がたくさん失われました。その亡くなられた方の無念に応えるためにも、私たちが今悲惨な災害を通して、学ぶべきことは何であったのかということ、再度問う必要があると思っています。

民間の調査ですけれども、この地震後にアンケートをとられた結果、この地震や雨によって防災に関心を持ったという国民は88%にも及び防災の準備をしないといけないというふうに感じた人が74%と、こんな高い数字である一方、何か支援をしたという方は47%、半分にも満たなかったということです。

市としても応急対策、職員派遣事業ということで、いろいろな部局が必要なところに出かけたりしていますが、そのシステムであるとか、募金や物品が滞ったとか、まだまだ組織のシステムも改善される必要があるところだということですが、改善に向けて動き出しているようです。自助、共助、公助と言われるそれぞれについて、再検討をされているところです。防災を語るときに、よく出てくる言葉に「居安思危」という言葉があります。これもまた中国の話ですけども、煙突から火花が出ているのを見て、その煙突を曲げて、薪を横へずらさないと、火事になるということを、知人から忠告されたんですけども、火事になるわけがないと言っていたところが、結局火事になって燃え、隣人が何とか消しとめてくれたというときに、消してくれた隣人には感謝をしたが、知人には何もなかったというような話があります。防災を進めていく上の妨げ機能の部分だと言われているのが、「慢心」、めったに起こらないという思いを持っていることと、「損得」、そんなことしても何にも起こらなかったら無駄だという、その2つが、防災の妨げだということをよく言われます。「ひょっとしたら」であるとか、必要な無駄もあるということを再認識することが防災に繋がると言われているところです。

さて、各学校の方では一昨日、2週間ぶりに子供たちが学校に登校しました。3学期と呼ぶ学校もありますし、後期の1月となっているところもあります。本当に事故なくと言いたいところですが、1人が

交通事故にあったという報告を受けているところです。

今年度も数えますと、学校に行くのは、最上級生が卒業するまでにもう2ヶ月、実質は2ヶ月あまりしかありません。もう一度、次のステージ、子どもたちを送っていく上でどんな力をつけないといけないかであるとか、そのためにあとわずかな期間に何をしなければいけないかということを、各校長に伝えたところです。

ところで、今年の20歳のつどいを迎える成人は、甲賀市とともに20歳を迎えます。その子供たちは2分の1成人式ということで、小学4年生のときに、20歳の自分という手紙を書いて、それをタイムカプセルに入れて、碧水ホールの前に埋めました。たまたま私も担当していたので、そんなことを思い出して、掘ってきましたが、その20歳の成人の方に4年生からの手紙が届くようになっています。校長にも話したのは、20歳の教え子の様子を見て欲しいと。私たちが何年もかけて育ててきたひとつの証というか、今日明日結果が出るわけではなく、そうやって長いスパンを経て子どもたちの様子を見る中で、また新たな課題を見つけることが必要ではないかというような話をいたしました。また、新年の箱根駅伝には、滋賀県の選手が何人も活躍していましたので、私も非常に興味を持って見ておりましたが、優勝された青山学院の原監督は、「当たり前のことを馬鹿にせず、こつこつやると、ほとんどはこれだけで勝てる」ということをおっしゃっています。各校長にも、本当に当たり前のこと、例えば、学校が「わかる できる のびる つどう」という楽しさ、子どもたちが登校するのが楽しいと思える学校であるとか、教職員が生きがいや働きがいを感じる職場であるとか、そんな当たり前のことをもう一度見直してほしいという話をさせていただきました。

また、ネイティブアメリカンの言葉、市長も年頭の訓示でお話されていましたが、「問いを持った部族は生き残ったけれども、答えを持った部族は滅びた」という、有名な言葉ですけれども、各学校では学校評価といういろんなアンケートや調査をしながら、課題や方策を考えたり、来年度に向けての取り組みを考えていく時期です。ベストの

答え、固定されたものを求めるのではなくて、ベターに結びつく問いかけを、続けて重ねていくことが大事だということも伝えました。

最後に、市長は年頭の訓示で、本年度の字として「整」という字を出されました。多様な価値観であるとか、多様な情報、そういったものを十分に整理をし、最優先にすべきこと、順序、制度設計等をしっかり整えた上で、市役所力の向上を図っていきたいという話をされました。私は、去年は辰年にちなんで、立岡の「立」という字を選び、私なりのやりたいこと、私なりのカラーで取り組みを立案していくという意味で、「立」という言葉を使いました。今年は巳年です。「巳」という漢字には、諸説ありますが、胎児、新しく生まれてくるというような意味合いや、未来が開ける、あるいは新しい経験や学びを通して蛇が脱皮していく、一皮むけて成長していくことであるとか、蛇のしなやかさが変化する環境にしなやかな柔軟性を持って乗り越えていくというような意味があります。

私はいろいろ予想される困難な状況でも、紆余曲折しながらもしなやかさと柔軟性を持って根気よく進んでいきたい、という意味で「進^{のぶみ}巳」を選びました。この字をモットーにして、しなやかに柔軟性を持って、今年の事業に取り組んで参りたいと思っております。皆様方のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。

1. 報告事項（1）甲賀市学校再編審議会からの答申について、資料1に基づき、事務局から報告を求めます。

教育総務課長 甲賀市学校再編審議会からの答申について、資料1に基づき、報告させていただきます。

甲賀市教育委員会の附属機関として、令和6年7月から5回にわたり、甲賀市学校再編審議会が開催され、諮問事項について慎重審議をいただきました。この度、審議結果を取りまとめいただきました、「第2次甲賀市小中学校再編計画に関する答申書」が教育委員会宛に提出されましたので、報告をさせていただきます。なお、本答申並びに、令和3年、4年度に審議をいただきました甲賀市小中学校教育のあり

方審議会からの提言も踏まえ、第2次甲賀市小中学校再編計画を策定してまいります。

以上、甲賀市学校再編審議会からの答申についての報告とさせていただきます。

教育長 それでは、ただ今の（１）甲賀市学校再編審議会からの答申について、何かご質問等ございませんでしょうか。

池田委員 感想のような感じになって申し訳ありませんが、スクールバスなどの交通手段の面がやっぱり出ておりますけど、皆さんもご存じだと思いますが、市の広報１月号に市民の満足度重要度の調査結果が載っていたんですけど、グラフになっていて、みんな割と真ん中辺に評価が集まっていて、いい感じだなと思っていたら右下のほうに「交通」と書いていました。交通手段は、本当に市民の普通の移動でも重要だなというところがありますので、やっぱりここに力を注いで何とか解決していかないと、子どもたちだけでなく市民全体の問題なんだと再認識しました。

教育長 ありがとうございます。課長、どうですか。

教育総務課長 ご意見ありがとうございます。確かに子どもたちだけではなくて、市民全体としてのバスのあり方というものも合わせつつ、なおかつ、この再編によりまして必要になると想定していますスクールバス、このことも総じて、今後、対応や対策を検討していきたいと思います。

教育長 他、いかがですか。

青木委員 先ほどの答申の中で全庁横断的な取り組みとして実施していくとのことでしたが、本当に非常に大事なことだと思いますし、地域、保護者さんの関心というのはどこに学校ができるんだろうとか、学校の場所的な、そういった関心が高いのかなということなので、そうではなくて、こんな学校を作るんだ、こんな子どもを育てるんだという、本当にそのあたりの丁寧な説明というのを大事にしていっていただけたらなということを思います。

教育総務課長 ありがとうございます。学校教育のあり方、これにつきましては教育委員会が主となって、保護者の方々、また市民の方々にご説明をさ

せていただきながらこの計画というのは進めていく、そういう必要があるかというふうに思っております。

また、全庁横断的ということですが、もちろん学校といいますのも1つの公共施設になりますし、先ほどのバスの件もございますので、この計画を進めていく部分においては、いろいろな課題が多岐にわたって生じてくるかと思っておりますので、それぞれの担当部署と意見交換、協議をさせていただきながら、実施していきたいと考えております。

教育長 他、いかがでしょうか。

教育長職務代理者 何度も読み、いろんなことを考えながら読ませていただきました。令和3年、4年度の小中学校教育のあり方審議会、ここも検討はされたんですけど、私自身の中では何かこの再編という言葉の意味っていうのが、ちょっと自分の中で押さえられてなかったなというのを読みながら、感動しながら読ませていただきました。というのは児童生徒数でだけではなくて、学校の規模が小さいとか大きいとかいうそういう問題ではなくて、甲賀市全体の学校教育のビジョンをどうするかで、しかも魅力あるその学校づくりを創設するという提案というか答申に、私は感激して読ませていただきました。その中で3つのポイントがありましたが、先ほども出ておりますように、全庁的にやっぱり横断的に取り組むというのは、いろんな面で出てきましたので、それが大きく出されたということ、それから現場に行かせていただいたら先生たちも本当に大変だけど、でも、ある校長先生は、いや本当は地域の中に持って行って欲しいんですって。そういうところを先生たちの悩みもありますけど、この再編の問題が先生も含めて、小学校だけじゃなく、9年間のカリキュラムに基づいて、先生たち全員の意識をしっかりとしてもらおうということを押さえられていること、すごいなと思いました。この3つのことを踏まえて、私もこれまでいろんなことをここで教わったんですけど、いろんなことが全部まとめられる機会になるんじゃないかと。これは市の担当者の方、教育長様を初めどう考えていらっしゃるか非常に興味があるんですが、私自身は、この問題をコミュニティスクールと地域学校協働の一体化ということ、

学校と地域の協働というのがあったと思うんですが、そのことも深めてきたし、義務教育の9年間を見通した小中一貫のことも話し合ってもきたし、また、保育園の保育、幼児教育のところと小学校教育を連携させていくんだという、これもまた目からうろこだったんですが、こういうことも話してきましたし、また先生の意識の問題とか、それから小学校の地域の問題では、もう幼稚園も保育園も小学校、中学校ももう一貫して連携の教育という、これがモデルになるんだよということを具体的に答申の中で書いてあるっていうのは、もう画期的だなと思って、多羅尾の特認校はどうかなと思いますけど、そういった具体的な提案がされてることは、非常にビジョンを持って頑張れるなって一市民として感じます。質問なんですけど、そういうことを押さえて、教育委員会全体としては、これからどんな組織で、教育委員会が主体とおっしゃいましたけど、私は自治振興会の問題も含めて、全庁的な組織でというところなんですけど、何かそういう検討組織、委員会を作ろうとされているのか、教育委員会の中だけの協働だけでなく全庁的にどのような組織、検討をもってされていくのか、ご意見ありましたら教えてください。

教育総務課長 ありがとうございます。今後この計画を進めていくにあたっての全庁的な組織についてでございますが、今のところ明確なものは構築できていない状況ではございます。ただ、しかしながら総合政策部、総務部とは組織の構成について協議はさせていただいております。その中では、先ほどの繰り返しになりますが、教育という分野に関しては教育委員会が主になっていくということにはなりますけれども、その他の部分、今おっしゃっていただきました市民協働ということになりますと、総合政策部の中の市民活動推進課が担当でございますので、協議をして取り組みを進めていく必要があるということについては、庁内で共通認識しているという段階でございます。以上でございます。

教育長 よろしいですか。

松山委員 まずこの場が教育委員会であるということと、教育の観点から、再編をどうしていくかというものを見ていくということなのでこれはこ

れですごく、例えば、小中一貫の方法や考え方で、子どもたちを育てていく、あるいは小中一貫だけじゃなくて、保育園からも連携を深めて、そういうことでどういう子どもを育てていくのかっていうことを示してくださっているようなので、大変ありがたいと思っています。子どもたちが地域の宝であるということを考えた場合に、こういう子どもを育てたい、将来的にこういうふうになっていく子どもたちになって欲しいっていう観点、それはそれで大事で、一方、先ほどから皆さんおっしゃっていますけど、全庁横断的に考えなくちゃいけないということを考えると、やっぱり子どもも大事だけれども、地域のあり方がこうあるべきというのか、こうあって欲しいっていうところもやっぱり、同時に大事だと思うので、野口委員は全庁的にはどういう組織をとるというふうに聞かれましたけれども、やっぱり、まちのあり方っていうのも、並行して、やっぱり両輪で考えていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

教育総務課長 ありがとうございます。まさしくその通りというところかと思います。そういった意味合いからも、全庁的な総合調整の役割を総合政策部が担っていますので、そういった調整が図れる部局が主導を持った形での組織の検討というのを作っていくという方向性で、今調整をさせていただいておりますが、その詳細については今のところ明らかになっていないというところでございます。

教育長職務代理者 地域の問題は、本当に私も大事に思っています。いろんな問題も地域の協力なしでは難しいなっていうのがいくつかあります。でもこれからは、このビジョンに基づいて今までやっていることをもう一回見直して、学校やコミュニティスクール、学校運営協議会と地域学校協働活動の組織の一体化をしているけれど、その学校の運営協議会のメンバーと地域学校協働活動の方が同じになっているとか、分離しているとかいろんな形が生まれているので、本当にそれをもう一度、社会教育、学校教育の中で議論を進めながら、どんな素地を作っていくのかというのが大事なかなと思いながら考えていたのと、それからこれは総論なので、具体的にはこれからだと思うんですが、多羅尾の間

題もたびたび出ていましたので、特認校はずっとありますけど、どういうふうにそれを捉えるかはこれまで再編をすでにされている地域の人たちの思い、そのあたりもちっと耳を傾け大事にしながら、今は子ども、保護者、学校、先生、地域、このあたりの一体化が言われているので、本当にすでに終わっているんじゃないくて今も生きているその再編後の地域を、もうちょっと大事にしながら進めて欲しいなと思います。多羅尾の場合だったら、多様化という面で、何かこの甲賀市だけに限らず、もっと本当に全国から希望者があればいいっていう、そういうことも考えの中にあるのかわかりませんが、発想を変えて、編成が要るのかなという気がするんですがいかがですか。

教育総務課長 ありがとうございます。地域連携、コミュニティスクールのことについても教育委員会の中で、一定の方向性、この中には特認校のあり方というものも含まれてくると思います。十分に協議をし、その結果をもって、保護者の皆様、また地域の皆様にお話をさせていただくというような流れになろうかと思っております。

また、地域との繋がりにつきましても、教育委員会だけで結論を出して、進めていくということではなく、全庁的に話し合いを進めながら、そこで一定、市の方向性や考え方というのをまとめた中で、また地域の方との意見を交換し合いながら計画を進めていく必要があると思っております。貴重なご意見を頂戴いたしましてありがとうございます。

教育長 一つ補足ですが、義務教育学校という言葉が、審議会の中ではよく出てきたんですけれども、一足飛びに義務教育学校というのは少しハードルが高いという部分もありますので、まずはやはり小中一貫の部分から、ここは保幼小も含めた一貫教育あたりから、先ほどの学校の魅力の一つであります学びから小中一貫という部分をまず取り組めたらいいかと思っています。そのあたりが魅力の一つになって欲しいと思いつつ、進めたいと思っています。

教育長 他に、ご質問等はございませんでしょうか。
(全委員 質問等なし)

教育長 それでは、（１）甲賀市学校再編審議会からの答申については報告事項として終わらせていただきます。

教育長 それでは、以上をもちまして、令和７年第１回甲賀市教育委員会臨時会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

〔閉会 午後３時３１分〕